

令和 6 年度

「運営に関する計画」

【最終評価】

大阪市立南港光小学校

令和 7 年 3 月

大阪市立南港光小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

昨年度は、学校行事もコロナ前に戻り、人数制限もなく運動会や学習参観・懇談会など地域・保護者が来校する行事が執り行われた。警察官を招聘した本格的な防犯訓練や交通安全指導、地震・津波、火災、台風を想定したすべての防災訓練も積極的に実施した。児童・教職員・保護者の危機意識が高まり、児童にも伝わった。次年度に向けて、地域と協同した防災訓練などを加え、今後も継続して有事に備えていきたい。

「いじめ」については「絶対に許さない」という思いを校長・教職員が、児童朝会や学級指導で児童に伝え続けた。学級担任は「いじめのない学級づくり」に取り組み、全教職員で協力して子どもたちの普段の様子をしっかり見守った。SNS やライン等によるトラブルに備え、例年通り住吉警察署のサイバー防犯教室を実施した。2 年続けて SNS によるトラブルが起こっていることもあり LINE 株式会社による SNS の安全な使い方等の出前授業も行い、情報モラルの育成に努めた。また、いじめ事象についても発出しきールカウンセラー等とも連携して解消に尽力した。次年度も外部機関と連携した取り組みを継続していく。

教科指導では、算数科を研究教科とし、算数科を中心に関教科で自分の考えを表現し、互いに学びあう学習や分かりやすい授業の改善に努め、研究授業、研究討議会、公開授業を実施し、授業力を高めることができた。また区の教員研究発表で実践報告をした。

体験学習では、大阪の町の様子や文化にふれる学習も継続して行った。今年度は、住之江区の町工場見学や木津市場、文楽劇場の見学も加え、さらに地域や大阪の文化に触れることができた。学校アンケート「大阪や町の良さについて知ることができた」の肯定的回答が 9 割を越え、大阪の良さを知り、意欲的に学習できた。今後も継続して取り組んでいきたい。

昨年度は体育科の学習を楽しく運動できる授業を推進した結果、例年本校の課題であった「全国体力・運動能力・運動習慣等調査」の握力の項目が大阪市平均を上回った。運動能力を高める実践を次年度も行っていきたい。また、学校保健委員会では、今年度もフッ化物塗布の学習を取り上げて、PTA も来校し体験を行った。学校の取り組みを知っていただき、児童の健康意識を高める啓発の機会となった。ICT の活用については、算数科で特にデジタル教材の活用が図られた。

- いじめについては、学校全体を俯瞰するといじめが目立っているように思える。自己肯定感と思いやりの気持ちを育てる取り組みを強化し、児童の意識を高め深める取り組みを考えいかなければならない。
- きまりを守ることについて、何の決まりを守っていないと思っているのかを明らかにして対策や呼びかけをする必要がある。
- 人権の発表で「学校全体でこう取り組んでいます。」と言えるような系統立てた取り組みを考え、継続していく。
- 学校全体として自己肯定感を高める工夫をするとともにし、お互いの思いやりの気持ちを表す言葉を育てていきたい。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・小学校学力経年調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。
- ・小学校学力経年調査・校内調査の「学校のきまりを守っていますか。」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。
- ・災害避難訓練（防災3種火災、台風、地震・津波）と防犯訓練を実施し校内調査等における「火災や地震・台風がおこったら、自分で考えて行動できますか。」という項目において、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。
- ・全国学力・学習状況調査・校内調査の「自分にはよいところがあると思いますか。」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を前年度より増加させる。
- ・校内調査の「大阪や自分たちの町のよさを知ることができた。」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・小学校学力経年調査・校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。
- ・小学校学力経年調査の「理科の授業は楽しくて、よくわかる。」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を、70%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

【ＩＣＴの活用に関する目標】

授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。（ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く）

【教職員の働き方改革に関する目標】

- ・年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を80%以上にする。
- ・ゆとりの日については、月2回以上設定する。また、学校閉庁日については、夏季休業期間中は3日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては1日以上設定する。

【生涯学習の支援】

- ・学校図書館やその蔵書を活用した授業を週に1回以上、もしくは月に数回程度行ったと回答する学級担任の割合を100%にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を 70%以上にする。
- ・小学校学力経年調査・校内調査の「学校のきまりを守っていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 90%以上にする。
- ・災害避難訓練（防災 3 種火災、台風、地震・津波）と防犯訓練を実施し校内調査等における「火災や地震・台風がおこったら、自分で考えて行動できますか。」という項目において、肯定的に回答する児童の割合を 90%以上にする。
- ・全国学力・学習状況調査・校内調査の「自分にはよいところがあると思いますか。」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を前年度より増加させる。
- ・校内調査の「大阪や自分たちの町のよさを知ることができた。」の項目について、肯定的に答える児童の割合を 90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・小学校学力経年調査・校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 70%以上にする。
- ・小学校学力経年調査で「理科の授業は楽しくて、よくわかる。」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 70%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

【I C T の活用に関する目標】

授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く)

【教職員の働き方改革に関する目標】

- ・年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 80%以上にする。
- ・ゆとりの日については、月 2 回以上設定する。また、学校閉庁日については、夏季休業期間中は 3 日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては 1 日以上設定する。

【生涯学習の支援】

- ・学校図書館やその蔵書を活用した授業を週に 1 回以上、もしくは月に数回程度行ったと回答する学級担任の割合を 100%にする。

本年度の自己評価結果の総括

「いじめ」については、「どんな理由であろうと絶対に許さない」という思いを、校長・教職員が児童朝会や学級指導で児童に伝え続けた。学級担任は「いじめのない学級づくり」に取り組み、全教職員で協力して子どもたちの普段の様子をしっかりと見守り続けた。子どもたちの些細な様子にも目を光らせることで、トラブルを未然に防ぐことや、大きな問題に発展することができないようにすることができていた。また、スクールカウンセラー等とも連携して、子どもの個々の問題に取り組むことができた。SNS 上でのトラブルに備え、担任が授業を通して情報モラルの育成に努めた。次年度も取り組みを継続していく。加えて、今年度は研究教科を道徳科とし、児童の自己肯定感や、人とのかかわりについて深く考えられる授業づくりを目指した。授業力向上だけでなく、児童の自己肯定感についてのアンケートにおいて、80%以上の児童が肯定的回答をしていた。

今年度も警察官を招聘しての本格的な防犯訓練や交通安全指導、津波・地震、火災、台風などの自然災害を想定した全ての防災訓練に加えて、保護者も参加する救急救命講習を行うことができた。児童は、訓練において真剣に取り組み、災害発生時にどのように動くべきかを学べたことを実感できていた。教職員も、児童の命を守るための指導や行動を改めて確認できた。さらに、防犯訓練において、教職員の不審者への対応について警察官から鋭い指摘を受け、児童の安全のみならず、自分自身を守るためにどうすればよいかを考えることができた。救急救命講習では、保護者の方も真剣に心肺蘇生の訓練に取り組んでいた。次年度以降も真剣に取り組み、児童の命を守れるようにする。しかし、地域・PTAの方と協同した行事、光ハイクを利用しての防災訓練を行おうと計画したが、消防署と日程を合わせられず開催には至らなかつたために、継続課題となっている。

教科指導では、理科・生活科の学習において、基礎基本の定着を図り、分かりやすい授業を目指した。学習のめあてを確かめ、児童が予想や計画を立て、しっかりと体験や実験に取り組み学びを深めてきた結果、校内調査の「理科の授業は楽しくて、よくわかる。」の質問に対し、肯定的回答は全体で86%となった。

今年度も体育科において「体力の向上を図り、楽しく運動できる授業」に取り組んだ。校内調査によると93%の児童が、「体育の授業は楽しい。」と肯定的回答をしている。また、運動・集会委員会が長時間休憩での遊びを計画「全国体力・運動能力・運動習慣等調査」では男女ともに全体の成績が全国平均を上回ることができた。ただし、握力の数値が今年度は全国平均を下回る結果となった。今後も手の力を高める活動を継続していく。

体験学習では、今年度も大阪の町の様子や文化にふれる学習も継続して行った。泉佐野漁港・市場見学で大阪の食文化を、その道中では大阪が誇る臨海工業地帯の様子を、文楽劇場の見学では大阪の伝統文化について学ぶことができた。学校アンケート「大阪や町の良さについて知ることができた」の肯定的回答は94%となった。意欲的に学び、大阪の良さを実感できたと考えられる。次年度も継続して大阪のことを知る学習や社会見学に取り組んでいく。

最後に、地域PTAの協力も学校運営の大きな力となっている。子どもたちの登下校の安全の確保や、光ハイクでの児童との交流、行事の運営の補助など、多岐にわたる。今後も感謝して連携を図っていく。

大阪市立南港光小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか。」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。 ・小学校学力経年調査・校内調査の「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。 ・災害避難訓練（防災3種火災、台風、地震・津波）と防犯訓練を実施し校内調査等における「火災や地震・台風がおこったら、自分で考えて行動できますか。」という項目において、肯定的に回答をする児童の割合を90%以上にする。 ・全国学力・学習状況調査・校内調査の「自分にはよいところがあると思いますか。」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。 ・校内調査の「大阪や自分たちの町のよさを知ることができた。」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>生活指導による週目標を振り返ることで規範意識を高め、学校生活に生かす。</p>	
<p>指標</p> <p>小学校学力経年調査・校内調査の「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、90%以上にする。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>災害避難訓練（防災3種火災、台風、地震・津波）と防犯訓練を実施し、防災・減災教育に全校で取り組む。</p>	
<p>指標</p> <p>災害避難訓練（防災3種火災、台風、地震・津波）と防犯訓練を実施し校内調査等における「火災や地震・台風がおこったら、自分で考えて行動できますか。」という項目において、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。</p>	A
<p>取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>学級でのさまざまなとりくみの中で、お互いのよさを認め合い、自尊心を高める活動を取り入れる。</p>	
<p>指標</p> <p>全国学力・学習状況調査・校内調査の「自分にはよいところがあると思いますか。」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。</p>	B

取組内容④【**基本的な方向 2 豊かな心の育成**】

大阪や自分たちの町の歴史や文化にふれる体験学習を実施する。

指標

B

校内調査の「大阪や自分たちの町のよさを知ることができた」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を、90%以上にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- 週目標の確認はしているが、目標の振り返りはできていない。廊下階段の歩行ルールをもう一度徹底する。
- 避難訓練の徹底により、災害時の行動の仕方は全児童が学習できている。毎年の地震や台風の影響で、より一層防災意識が高まっている。
- 高学年になるほどもっとも肯定的な回答が減少傾向にあるが、肯定的に回答している児童の割合は変わらない。各学級でよいところ探しを行っている。特別支援の児童についても、自尊感情を高める声かけや指導法の工夫が必要である。

次年度への改善点

- きまりを守る取り組みについては、きまりを明文化し子どもたちにわかりやすいようにする。現在の学校の現状はきまりを守っていないものと捉えることで、前向きに考える必要がある。
- 自己肯定感について、研究課題である道徳の研究とも関連付けながら、取り組んでいく。お互いがお互いを尊重する取り組みや、言葉かけを増やしていければと思う。

大阪市立南港光小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査・校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。 ・小学校学力経年調査で「理科の授業は楽しくて、よくわかる」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。 	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 理科・生活科の学習において、基礎基本の定着を図り、分かりやすい授業を推進する。</p>	A
<p>指標 小学校学力経年調査の「理科の授業は楽しくて、よくわかる。」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を、70%以上にする。</p>	A
<p>取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】 体育科の学習において、体力向上を図り、楽しく運動できる授業を推進する。</p>	A
<p>指標 校内調査で「体育の授業は楽しい。」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。</p>	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
○理科・生活科のアンケートの結果は86%と目標を上回っている。授業中、子どもたちは楽しく活動している。しかし、肯定的回答が低い学年もある。理科の授業や実験は楽しく活動しているが、テストが難しいのかもしれない。
○体育の授業は好きな子が多く、アンケートの結果は93%と目標を大幅に上回っている。ランラン週間は、冬に子どもたちが外で運動するよいきっかけになっている。
次年度への改善点
○理科・生活科については、「どちらかといえばそう思う」の割合が高いので、「思う」の割合を高める工夫をする。また、指標の割合を高くする。
○ランラン週間以外にもみんなが目標をもって楽しく体力向上に取り組める活動を増やす。2時間目の休み時間にすると、5・6年生の時間割の調整が必要になるので、朝に運動集会を開きみんなで運動する取り組みについて検討していく。

(様式2)

大阪市立南港光小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>【ICTの活用に関する目標】</p> <p>授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。（ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く）</p> <p>【人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を80%以上にする。 ゆとりの日については、月2回以上設定する。また、学校閉庁日については、夏季休業期間中は3日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては1日以上設定する。 <p>【生涯学習の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校学力経年調査における「学校図書館やその蔵書を活用した授業を計画的におこないましたか」に対して、「週に1回程度、または、それ以上行った」又は「月に数回程度行った」と回答する学級担任の割合を100%にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【生涯学習の支援】</p> <p>読書に親しみ、いろいろな本に出会う機会を作り、国語の学習にとらわれず、様々な教科で本の活用を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校図書館やその蔵書を活用した授業を週に1回以上、もしくは月に数回程度行ったと回答する学級担任の割合を100%にする。 	B
<p>取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>「学校における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準に基づき、働き方改革に取り組む。</p>	B
<p>指標</p> <p>ゆとりの日については、月2回以上設定する。また、学校閉庁日については、夏季休業期間中は3日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては1日以上設定する。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
○ICTを活用した授業は全学年で取り組んでいる。
○住之江図書館からの学習に関連する図書を計画的に団体貸出することで、単元の学習と並行して読書することができた。しかし、学年が上がるにつれて、図書の時間をとりにくくなってしまっており、学校図書館やその蔵書を活用した授業を行うことが難しくなっている。
○教職員の中で働き方改革の意識が高まっている。時間外勤務の累積については改善されている。時差勤務の導入により、勤務時間の選択ができている。ゆとりの日や学校閉庁日を指標通り設定することができた。
次年度への改善点

- 高学年の読書離れを改善するため、学校図書館に内容を吟味して漫画を増やしていく。
読書タイムが月曜の朝会後では、時間がなくほぼ実施できない。他の曜日に変更してはどうか。また、朝会の際、朝読書のお知らせとともに、図書委員がおすすめの本を紹介し本に興味をもてるようとする。
- 課業期間中の「休憩時間の確保」については難しい状況である。業務の整理をして時間外勤務を増加させないように継続して努めていく。